

「発足20年目を迎えるに当たって」

青森県県土整備部河川砂防課長 田邊 順次

「あおりの川を愛する会」会員の皆様、平成10年5月に当会が発足し、今年で20年目を迎える年に、河川砂防課長として寄稿できますことを大変光栄に思う次第です。発足当時の私は、相馬十九三河川砂防課長の下で河川開発班におり、深浦町の磯崎ダム、弘前市の大和沢ダムの調査等を担当しておりましたが、皆様ご存じのとおり、その後、両ダムとも中止となりました。時代の趨勢には誰も抗うことができなかったのではないかと感じておりますが、さらに平成22年に民主党政権が誕生した際には、直轄の八ッ場ダムを大きな標的としながら、全てのダム事業について見直すダム検証が行われました。平成22年度から23年度にかけて駒込ダム建設所、河川砂防課に在籍しこれに関わった末、結果として大間町の奥戸ダムを中止としてしまいました。駒込ダムは継続とすることができましたが、上記3つのダム、もっと言えば



鱒ヶ沢町の中村ダム、さらには十和田市の熊の沢ダムも予備調査の段階でしたが中止となりました。現在の社会情勢であれば、これほどダム事業が中止にならなかったと思いますが、安全・安心を担う社会基盤といえども、時々の政治・経済・社会情勢に左右されるということであって、我々、防災インフラを担当する技術公務員はこれを教訓として物事に取り組んでいく必要があると思います。

さて、昨年8月後半は台風が相次いで青森県に接近・上陸し、北八甲田山を流域に持つ堤川水系では、8月17日の台風7号、23日の台風9号、26日の前線豪雨、30日の台風10号と大雨に見舞われ、これら各気象の降雨量の合計は下湯ダム上流にある酸ヶ湯540.5mm、駒込川上流にある田代平で504mmとなり、気象庁の資料によると酸ヶ湯の過去30年間における8月の平均降雨量197.3mmの2.5倍程度でした。台風10号が上陸した際には流域が十分に湿潤状態にあって、降雨の多くが土壌に浸透・貯留せずに直接河川に流出したものと想定されます。



目次:

「発足20年目を迎えるに当たって」	P1
平成28年度活動報告 堤川を愛する会	P3
平成28年度活動報告 サークル「母なる川」	P3
平成28年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	P4
平成28年度活動報告 親しめる川づくりサークル	P4
総会・講演会	P5
水辺関心創造アクション	P5
熊ノ沢川源流の地	P6
河川技術講演会	P7
萬川清掃活動	P7
日本海沿岸津波講演会	P8
イワナの産卵床づくり	P9
平成29年度あおりの川を愛する会総会のご案内 事務局より	P9

ハイライト:

- ・8月の台風の影響は？(P1)
- ・ダムはインフラの代表(P2)
- ・川によって川面の色やにおいが違う！(P3)

このような流域の状況の中で台風10号が来襲し、下湯ダムではダムへの流入量が既往最大の283トンを（計画600トン）を記録しましたが、その治水効果を遺憾なく発揮し、下流河川の水位低下に大きく貢献しました。また新井田川においては、世増ダムで既往最大流入量633トン（計画1,230トン）となりましたが、下流島守地区の災害復旧関連緊急事業による改修効果と併せて、氾濫防御に大きな貢献をしました。たぶんですが、新井田川は、ダム・改修工事が完了していなければ、大規模に氾濫していたものと想定しています。このように、偉大な先輩達が営々と築き上げてくれた、インフラ・治水施設の大いなるストック効果の恩恵にあずかった昨年でありました。

今年1月13日には、十三湖水戸口突堤が土木学会選奨土木遺産に認定されました。岩木川の河口（十三湖湖口）である水戸口は日本海からの強風・荒波により幾度となく河口閉塞を繰り返してきましたが、試行錯誤の上、現在の水戸口位置となって以降、87年間閉塞しておらず、その機能は維持されているとのこと。地域を苦しめた度重なる水戸口閉塞による浸水被害を解消し、岩木川の治水と津軽平野の発展の礎となった十三湖水戸口が貴重な土木遺産として大きな評価を得たわけであります。

当会会員が多数参加した認定記念式典では、当会会長である佐々木先生と、平山五所川原市長が、土木学会東北支部長である川瀧東北地方整備局長から表彰されました。この水戸口の例を見るにつけ、土木施設とりわけ治水施設というインフラが正当な評価を得るには、長い年月が必要なのだ地元の間人ながら改めて感じている次第です。

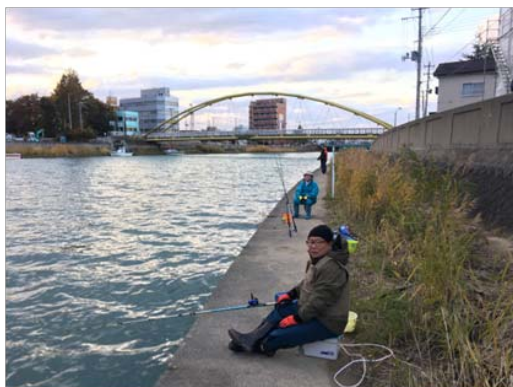
先程、昨年の台風10号では下湯ダム、世増ダムが洪水防御に大きな役割を果たしたと申しましたが、世間一般にはなかなか評価してもらえていないようです。報道機関へも説明しているのですが、なかなか取り上げてもらえていません。道路等、即時的にその効果が感じられるものとは違うので致し方ないとも思いますが、十三湖水戸口のように100年のタイムスパンで（下湯ダム、世増ダムは共に100年確率という時間規模）、長い目で構えていたいものであります。

ちなみに、インフラ・社会基盤とは、英語でインフラストラクチャー（infra structure）ですが、このinfraは、infra sonic（超低周波）、或いはinfra redray（赤外線）等、周波数が非常に低く、通常、人間が聞くことができない、見ることができない、人間が感知できないという意味で使われているようです。つまり、infra structureとは、人間の目には見えづらい、感じ取りにくい構造物という意味だとすれば、山奥にひっそりと佇んでいるダムなどは、まさにその代表であります。



このことが、洪水の発生がないことがインフラのおかげであること、これに住民の皆さんが気付かず、或いは気にも留めず、故にそのインフラがあまり感謝もされないことの原因ではないかと考えています。先達の皆さんが遺してくれたこの貴重なインフラを受け継いだ我々後輩は、気付かれないことに対して、むしろ誇りを持ちながら、山奥に棲む仙人のように黙々と、さらなる発展を目指していくべきであると思っておりますことから、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。結びに、会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念して、巻頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

●堤川を愛する会 平成28年度活動報告
サークルリーダー 東郷 克彦



活動基本方針の一つ「少しは社会貢献」の行事として、小雨の中開催された、青森市主催の「植林事業の現地観察会」に参加。また、全国一斉社会実験である水辺関心創造アクション「水辺で乾杯2016」堤川版の実施などの活動を経て、秋（10月29日）には、一方の活動基本方針である「川と遊び」として、恒例の「堤川河口でのハゼ釣り」を開催いたしました。

日暮れ前から日没後までの数時間での釣りではありますが、手のひらサイズのハゼ、カレイ等の釣果があり、その後の懇親会での貴重な食材となりました。

東京下町（河口付近）では、夏の風物詩でもある親指サイズのハゼ釣り（頭と腸をとり、素揚げやてんぷらで食べる家庭もあるそうです）体験がある、私個人としてボウズという散々たる結果に終わりましたが、川面の色、においがそれとは大きく違う堤川に身近に触れる貴重な機会となりました。

来年度以降も、メンバー並びに関係者のご支援を仰ぎ、かつコミュニケーションの場を多く設け「堤川を愛する会」も活動を進めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

●サークル「母なる川」 平成28年度活動報告
サークルリーダー 和島 隆志

サークル「母なる川」では2016年度の活動として、2017年3月に台湾の淡水河を視察してきました。淡水河は台湾中北部・第二の高峰「雪山」付近に源を発し、山間部を下り、台北市街を北西に流れ台湾海峡に注ぐ川で、長さ約159km、流域面積約2,700km²の河川です。

狭義では、上流部の大漢溪と新店溪の合流地点から河口までが、主に「淡水河」と呼ばれていますが、台湾中部の濁水溪、南部の高屏溪と並び台湾三大河川とされています。

急流河川が多い台湾の河川のなかにあって年間を通して比較的に水量が安定していた淡水河は、台湾開拓初期には航運が盛んに行われ、また、河口部は天然の良港として栄えたが、近年は河道が浅くなり、航運には適さなくなっているようです。

下流部市街地には昔ながらの街並みがあり、昔ながらの人々の暮らしが営まれています。川との間には高い堤防が築かれましたが、人々の往来は激しく続いています。

まるで昔もそうであったように。



●ジョイリバーおいらせ 平成28年度活動報告
サークルリーダー 中野渡 悟

ジョイリバーおいらせは、「おいらせ知（とも）の会」と活動を共に実施する事が多く、春の植樹と夏の川下り、秋の蔦川清掃活動（青森の川を愛する会の活動の一環）、イワナの産卵床づくり等々が主な活動です。



今年は6月18日に34名の参加でおいらせ知（とも）の会「ふれあいの森」でブナの植樹を実施しました。また、8月1日には44名（スタッフ含む）が参加し、快晴の中、川下りを実施しました。

●親しめる川づくりサークル 平成28年度活動報告
サークルリーダー 南 直之進

平成28年7月16日（土）に岩木川水辺プラザにおいて、昨年同様中弘南黒建設協会と一緒に「川でふれあい建設フェア2016」を開催しました。自然に触れ合う機会が少ない子供たちが、親とともに川と触れあえる機会を設けるための魚のつかみ取り競争と、建設業を身近に感じてもらうために、ものづくり体験コーナー、建設機械の展示と・試乗体験を行いました。当日は多くの家族連れが訪れ、用意した500匹のニジマスが悪戦苦闘しながら、歓声を上げて楽しそうに追いかけてたり、高所作業車やタイヤショベルなどの建設機械も人気があり、特に高所作業車は長蛇の列となりました。

ものづくり体験コーナーは、イスづくり・畳でコースターづくり・ペンキでお絵かき、コテを使って壁塗り等親子で真剣に取り組んでました。また魚の串焼き・唐揚げ・巨大アップルパイ・アイスクリーム無料振る舞いなど、約700名の参加者から大好評でした。

参加した子供たちは 皆すごく楽しかったと言っていたので、今年もまた企画したいと思っています。



●平成28年度 総会・講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

平成28年5月21日（土）平成28年度総会をアラスカ会館に於いて開催しました。総会終了後、前弘前市立図書館 館長 宮川慎一郎様が演題「岩木川水系のよもやま話」の内容で講演会を行いました。（参加者41名）



佐々木会長



宮川慎一郎氏

●平成28年度 「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション
あおもりの川を愛する会 事務局

全国一斉社会実験として水辺関心創造アクションが平成28年7月7日午後7時7分に行われました。当会も参加し各場所（堤川、土淵川、馬淵川、旧十川、官庁街通りせせらぎ水路、田名部川）に集まって頂き川のほとりで乾杯致しました。（参加者91名）

堤川



土淵川



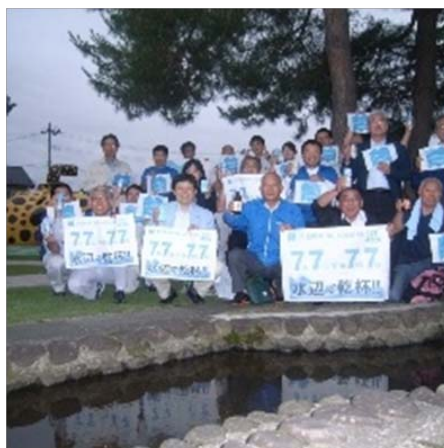
馬淵川



「水辺で乾杯」水辺関心創造アクション

官庁街通りせせらぎ水路

旧十川



田名部川



●平成28年度 熊ノ沢川源流の地
あおもりの川を愛する会 事務局

平成28年7月19日に標柱の建立を十和田市大字深持山に流れる熊ノ沢川の源流の地に標柱を建立しました。毎年1ヶ所、源流の地に標柱を建立しており、今年で11本目となりました。(参加者14名)

<大畑川、野辺地川、蟹田川、田名部川、土淵川、
天田内川、浅水川、鳴沢川、十川、松館川>



●平成28年度 河川技術講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

平成28年8月1日に弘前文化センターで「河川技術講演会」を開催しました。青森河川文化講演会は平成10年から開催され今回で19回目となります。

講演会の内容は国土交通省 東北地方整備局河川部長 畠山慎一氏が演題「岩木川の治水と利水について」、弘前大学教授 東信行氏が演題「河川環境と技術」で行いました。

(参加者 256名)

葛西市長



畠山慎一郎氏



三村知事ビデオでご挨拶

●平成28年度 蔦川（つたがわ）清掃活動
あおもりの川を愛する会 事務局

<平成28年9月3日（土） 於：蔦川>

第14回目となります蔦川（旧十和田湖町）の清掃活動を行いました。作業前に分別袋を渡し会員、焼山町会長ほか約66名参加されごみ拾いを行いました。

川岸・道路沿いには相変わらずジュースの空き缶・タバコの吸殻等落ちていました。それでも毎年行っている継続の成果でゴミは少なくなってきました。

当会としまして年1回の清掃・美化活動ですが、今後も継続し蔦川溪流に来て頂いた人に綺麗な川を見て頂きたいと考えております。



上北県民局平田次長挨拶



●日本海沿岸津波講演会
あおもりの川を愛する会 事務局

平成28年10月22日に日本海漁火センター（中泊町）と11月5日に深浦町町民文化センター（深浦町）に於いて演題「日本海沿岸の最大クラスの津波と地域の防災力向上について」、「津波浸水想定について」の講演会を青森県・当会と主催で開催しました。

（参加者 中泊町103名 深浦町95名）



<中泊町>



青森県県土整備部元永理事挨拶



中泊町小野町長挨拶



<深浦町>



青森県県土整備部鈴木部長挨拶



深浦町吉田町長挨拶



●イワナ産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成28年10月7日（金）於：鳶川小溪流>

107イワナの日ということで10月7日に十和田湖近郊の鳶川の小溪流に今回で10年目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。

作ってから約1ヶ月後に産卵を確認いたしました。（参加者15名）



確認された卵



●平成29年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局



平成29年度の総会を5月20日（土）に予定しております。総会後には、講演会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は20年目を迎えました。会員数は現在192名となっています。今年度も、会員の協力のもとさまざまな活動を行なう事が出来ました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思っております。ご協力よろしくお願い申し上げます。

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL:017-729-0922

FAX:017-739-3561

E-mail:kon-h@nishidagumi.co.jp